

イクメンパパ ～子育て奮闘中～

- Q1** 子どもが生まれた時のパパの気持ち？
人生で一番嬉しかったです。自分よりも大切な存在がいるってこういうことなんだから、胸一杯になりました。
- Q2** どのようなパパ育児をしていますか？
やれることは、何でもやります。やれないことも挑戦します。
- Q3** 子育てで、嬉しいことはどんなこと？
いつの間にか出来るが増え、こっちの予想をはるかに超えた成長が時にみられるところです。
- Q4** ママへ
いつもありがとう！ママのことも大好きなんだぜ！
- Q5** 子どもたちへ
だーい好き！これから先何があっても、あなたたちのことが大々大好きだよ！

さくら いしん いち
櫻井伸一さん

下松小学校区在住

子ども
女の子4歳 男の子1歳

こんにちは

下松市青少年育成協議会でも

「下松市連合婦人会」を紹介します。

下松市連合婦人会は、戦後まもなく昭和22年に結成されました。地域の女性が互いに手を結びあい、温かい心の通い合う、豊かで誰もが生き生きと暮らせる社会の実現のため活動している社会教育団体です。暮らしの安全や環境保全など幅広い活動を展開し、地域のお母さんとして子どもたちの育ちを見守ってきました。

平成9年から20年以上、交通安全を願って新入学児童にランドセルカバーを贈っています。



【アンケートにご協力ください】

星の子ネット情報誌「ねえ」を読んでいただきありがとうございます。
「ねえ」を読んだ感想やご意見をお聞かせください。

アンケートはこちら

高校生以上の

学生も大歓迎！

取材や情報誌編集など
私たちといっしょに
活動してみませんか？

詳しくは
こちらまで



募集

星の子ネット
ボランティアスタッフ

星の子ネット情報誌 ねえ

2024 秋
Vol.47



知っておきたい 下松の防災・減災対策

～あわせてのために～

災害とは～

私たちの暮らしは自然災害（地震や台風、集中豪雨など）や人災（人間の不注意が原因で起こる災害）と隣り合わせです。いつおこるか分からないからこそ備えが大切です。

下松市でも過去に集中豪雨の発生や台風の襲来で、土砂災害・河川の氾濫などが発生し家屋が壊れたり護岸が流されたり被害が発生しています。過去の災害から学んだことをしっかり伝えましょう。

平成16年8月30日 台風16号

猛烈な雨により大河内地区で床上浸水



平成16年9月7日 台風18号

笠戸島沖で貨物船座礁。死者行方不明者22名



平成21年7月19日～26日 中国九州北部豪雨

床上床下浸水多数



平成30年7月5日～8日 西日本豪雨

市道瀬戸線道台崩壊・笠戸島南部の集落孤立



大切なことは

協働で防災
すること!!

自助(じじょ)

自分の命を自分で守るための備えを
しっかり行いましょう。災害が発生し
たら、速やかに行動です。

協働

公助(こうじょ)

変化していく社会に対応した情報
の提供や施設の設備を充実しま
す。災害が発生したら、速やかに
応急対策を実施します。

協働

共助(きょうじょ)

家族や地域で助け合うため、日頃
から支援者の確認をしましょう。声
かけが大事!災害が発生したら、被
災者支援を行いましょう



そな うれ ※クイズの答えは下に

備えあれば憂いなしクイズ

詳しくはこちら

下松市
防災ガイドブック



問1 台風や大雨に備えておくべきものは何？

- ① 雨、風が強くなってきたので外に出て確認する
- ② テレビやインターネットで雨や風の情報を前もって調べる
- ③ 被害が出ないように天の神様にお願いする

問2 いつ来るかわからない地震に備えて対策しておくことは何？

- ① 本棚のすぐ前で寝る
- ② ナマズを飼って地震予知をする
- ③ 家具を倒れないように固定する

問3 火事に備えて用心しておくことは何？

- ① ストープの周りは、良く乾くので洗濯物を干す
- ② 住宅用消火器をわかりやすい場所に置いておく
- ③ マッチやライターで遊ぶ

地震、火事、水害、土砂災害などいつ起きてもおかしくない災害は身近にあります。被害を最小限に抑えるために最も大切なのは準備です。



災害が起きた時、 どうする？

1 あわてない！
自分の身を守る



2 テレビ、ラジオ、
インターネット、
メール等で
災害情報を得る



3 家族の安全を
確認する



4 安全な場所を
確保
避難する判断は
早めにする



答え

- 問1【2】日ごろから危険な川やがけは知っておこう
問2【3】家具などは倒れやすいので倒れない対策をしておこう
問3【2】初期消火と大きな声で「火事だ!」と叫ぼう。

防災訓練って どんなことをするの？

防災・減災について、年に一度は
しっかりと話し合いをしましょう。

令和6年3月9日の防災訓練の様子（中村総合福祉センター）

マンホールトイレ設置訓練



伝言ダイヤル



車両閉じ込め救助訓練



避難者用テント設置訓練



炊き出し訓練



防災アニメーション上映



下松市防災作文コンクール 市長賞受賞作品をアニメ化

防災訓練に
参加しましょう！



能登半島地震の被災地に下松市から 4人の職員が派遣されました。

～震災の現場での活動内容と、子どもたちに伝えたいこと～



小林洋之
(生涯学習振興課)

被災地家屋を調査した後のチェック、
各自治体との調整や会議の議事録作
成をしました。

公助の限界と自助・共助の必要性を感じ
ました。人間はひとりでは生きていくこと
はできません。日頃から親や友達を大切
にしてください。



西山翔太郎
(住宅建築課一級建築士)

派遣された時点では、電気や水道が復旧
してない部分が多く、多くの方が不便な
生活を余儀なくされていました。その中で
罹災証明発行の為に壊れた建物の調査
をしました。

被災は子どもだからといって待ってけれ
るわけでも、手加減をしてくれるわけでも
ないので、被災地での状況も他人事だ
と思わずに、日頃から防災意識を高めて
ほしいと思います。



藤井有希
(健康増進課保健師)

避難所を回ったり高齢者の家を訪問した
りして、健康状態や衛生的に保たれてい
るか、困ったことはないかなどの確認をし
ました。

災害には「備え」が大事ですが、それは物だ
けでなく、周りの人とかかわりも含まれる
と思います。普段から「おはようございます」
「ありがとうございます」など、きちんと挨拶
をすることです。そして、できれば地域の行
事などにも参加してみましょう。



吉開仁彦
(生涯学習振興課)

保健師と一緒に能登町の避難所や個人
宅を回り、健康状態の確認や支援物資の
支給など、保健師のサポートをしました。

下松市でもいつ地震や台風による災害が
起こるか分かりません。東日本大震災、能
登半島地震、下松市での大雨災害といっ
た、過去の災害を知り、忘れない。それが、
大事な家族(ペット含む)を守るための、準
備の第一歩になると思います。